青森県経済統計報告

令和２年４月２８日

企画政策部統計分析課

１　青森県の推計人口（令和２年４月１日現在）…… 1

県　人　口　1,234,523 人（対前月 6,064 人減少）

自然動態　　976 人減少（出生者数　561 人、死亡者数　1,537 人）
社会動態　5,088 人減少（転入者数 3,634 人、転出者数　8,722 人）

２　本県の経済動向（令和２年２月・３月の経済指標を中心として）

（１）経済概況

本県経済は、弱含んでいる。なお、直近の景況感（青森県景気ウォッチャー調査・令和２年４月期）をみると、新型コロナウイルス感染症による影響から、平成１３年７月の調査開始以来、最も低い水準となっており、今後一層の悪化が懸念される。

（２）主要経済指標の動向

(2-1)　生産動向　・令和２年２月の**青森県鉱工業生産指数**(平成 22 年＝100)は、季節調整済指数が 112.0 で、前月比 1.7%の低下となり、2 カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 100.7 で、前年同月比 1.8%の上昇となり、2 カ月連続で前年同月を上回った。 … 2

(2-2)　雇用労働　・令和２年２月の**定期給与**は 223,988 円で前年同月比 1.3%増となった。**総実労働時間**は 146.0 時間で前年同月比 0.7%増、**所定外労働時間**は 9.6 時間で前年同月比 4.4%増となった。
・令和２年３月の**有効求人倍率**（季節調整値）は 1.10 倍で、前月を 0.03 ポイント下回った。 … 3

(2-3)　物　価　令和２年３月の**青森市消費者物価指数**（平成 27 年=100)は、総合指数が 102.3 となり、前月比 0.3%の下落、前年同月比 0.2%の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 102.4 となり、前月比 0.1%の下落、前年同月比 0.4%の上昇となった。 … 5

(2-4)　個人消費　・令和２年２月の**百貨店・スーパー販売額**は、全店舗ベースが 128 億円で前年同月比 2.3%増となり、5 カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比 3.5%増となり、5 カ月ぶりに前年同月を上回った。（**更新なし**）
・令和２年３月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は 5,052 台で、前年同月比 13.7%減となり、6 カ月連続で前年同月を下回った。
・令和２年３月の主な観光施設の**観光入込客数**は、370 千人で前年同月比 29.4%減となり、3 カ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設の**宿泊者数**は、79 千人で前年同月比 30.3%減となり、8 カ月連続で前年同月を下回った。 … 6

(2-5)　建　設　・令和２年２月の**新設住宅着工戸数**は 273 戸で、前年同月比 42.5%減となり、6 カ月連続で前年同月を下回った。（**更新なし**）
・令和２年３月の**公共工事請負額**は 75 億 5,800 万円で前年同月比 6.3%減となり、7 カ月ぶりに前年同月を下回った。 … 7

(2-6)　企業倒産　令和２年３月の**企業倒産**は、件数は 10 件で前年同月比 150.0%増となった。負債総額は 29 億 6,100 万円で前年同月比 424.1%増となった。 … 8

（３）景気動向指数ＣＩ（令和２年２月分）…… … 9

先行指数　97.8（前月を 6.1 ﾎﾟｲﾝﾄ上回り、4 カ月ぶりに上昇した）
一致指数　116.4（前月を 1.8 ﾎﾟｲﾝﾄ上回り、3 カ月ぶりに上昇した）
遅行指数　111.6（前月を 0.6 ﾎﾟｲﾝﾄ上回り、2 カ月連続で上昇した）

（４）青森県景気ウォッチャー調査（令和２年４月期）…… … 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断ＤＩ…8.8（前期比 28.7 ポイント減、9 期連続で 50 を下回る）
3 カ月後の景気の先行き判断ＤＩ…… 11.4（前期比 32.4 ポイント減、4 期連続で 50 を下回る）

1　青森県の推計人口（令和２年４月１日現在）

【概　況】

令和2年4月1日現在の本県推計人口は、1，234，523人で、前月に比べ6，064人の減少となった。

○自然動態

出生者数が561人、死亡者数が1，537人で、976人の減少となった。

○社会動態

転入者数が3，634人、転出者数が8，722人で、5，088人の減少となった。

総人口の推移

（単位：人）

	総数	男	女	対前月増減率	増減数	自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
昭 45.10. 1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10. 1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10. 1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10. 1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10. 1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10. 1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10. 1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10. 1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10. 1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10. 1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
31. 4. 1	1,250,447	587,119	663,328	-0.531%	-6,638	-865	597	1,462	-5,773	3,410	9,183
令元. 5. 1	1,250,388	587,261	663,127	-0.005%	-59	-913	605	1,518	854	3,444	2,590
元. 6. 1	1,249,315	586,720	662,595	-0.086%	-1,073	-1,005	635	1,640	-68	1,360	1,428
元. 7. 1	1,248,340	586,255	662,085	-0.078%	-975	-703	611	1,314	-272	1,091	1,363
元. 8. 1	1,247,658	586,057	661,601	-0.055%	-682	-775	643	1,418	93	1,826	1,733
元. 9. 1	1,246,877	585,702	661,175	-0.063%	-781	-856	589	1,445	75	1,692	1,617
元. 10. 1	1,246,291	585,461	660,830	-0.047%	-586	-847	569	1,416	261	1,592	1,331
元. 11. 1	1,245,301	584,988	660,313	-0.079%	-990	-903	646	1,549	-87	1,262	1,349
元. 12. 1	1,244,403	584,597	659,806	-0.072%	-898	-986	575	1,561	88	1,074	986
令2. 1. 1	1,243,282	584,080	659,202	-0.090%	-1,121	-1,018	553	1,571	-103	942	1,045
令2. 2. 1	1,241,902	583,414	658,488	-0.110%	-1,380	-1,230	582	1,812	-150	1,117	1,267
令2. 3. 1	1,240,587	582,838	657,749	-0.106%	-1,315	-973	506	1,479	-342	1,025	1,367
令2. 4. 1	1,234,523	579,730	654,793	-0.489%	-6,064	-976	561	1,537	-5,088	3,634	8,722

３月中の人口動態の推移

（単位：人）

年月		22.3	23.3	24.3	25.3	26.3	27.3	28.3	29.3	30.3	31.3	R2.3
自然動態	出生者数	847	797	742	704	745	737	743	665	617	597	561
	死亡者数	1,447	1,579	1,498	1,501	1,475	1,461	1,483	1,565	1,620	1,462	1,537
	自然増減数	-600	-782	-756	-797	-730	-724	-740	-900	-1,003	-865	-976
社会動態	県外からの転入者数	4,069	2,887	3,822	3,440	3,923	3,806	3,828	3,993	3,686	3,410	3,634
	県外への転出者数	8,558	5,920	8,691	9,110	9,050	9,159	9,102	9,339	9,367	9,183	8,722
	社会増減数	-4,489	-3,033	-4,869	-5,670	-5,127	-5,353	-5,274	-5,346	-5,681	-5,773	-5,088
増減数計		-5,089	-3,815	-5,625	-6,467	-5,857	-6,077	-6,014	-6,246	-6,684	-6,638	-6,064

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。
※2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。
※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。
※4 算出方法
県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

２　本県の経済動向

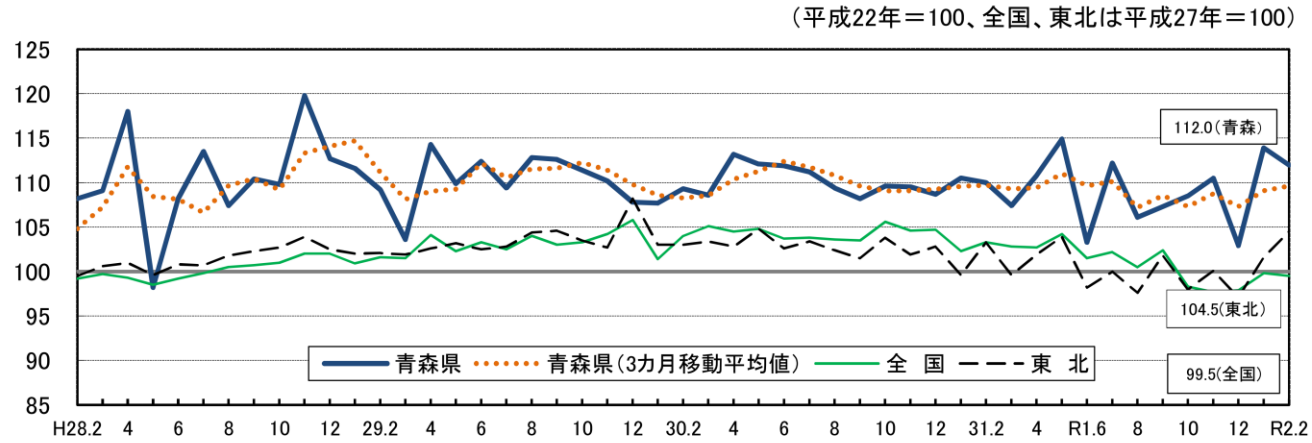
（２）主要経済指標の動向

（２－１）生産動向

令和２年２月の青森県鉱工業生産指数（平成 22 年＝100）は、季節調整済指数が 112.0 で、前月比 1.7%の低下となり、２カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 100.7 で、前年同月比 1.8%の上昇となり、２カ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、鉄鋼業、食料品工業、パルプ・紙・紙加工品工業等が上昇に寄与した一方、生産用機械工業、電子部品・デバイス工業、石油・石炭製品工業等が低下し、鉱工業全体では 1.7%の低下となった。

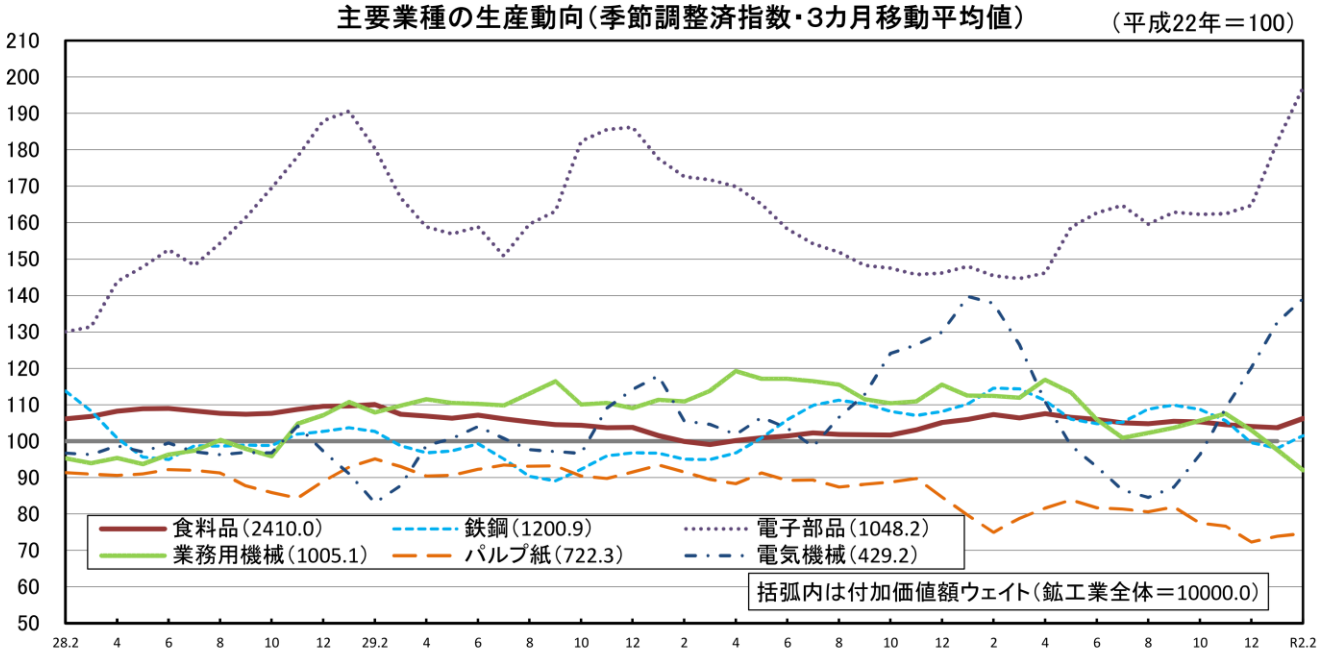
青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移 （季節調整済指数）



◎業種別動向（前月比）　鉱工業全体　-1.7%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
鉄鋼業	20.9	73.3	生産用機械工業	-78.9	-139.4
食料品工業	5.2	40.3	電子部品・デバイス工業	-4.0	-27.4
ﾊﾟﾙﾌﾟ・紙・紙加工品工業	10.5	16.9	石油・石炭製品工業	-73.9	-27.1
非鉄金属工業	15.8	16.1	輸送機械工業	-16.4	-20.9
業務用機械工業	4.9	13.7	金属製品工業	-11.5	-19.0

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)



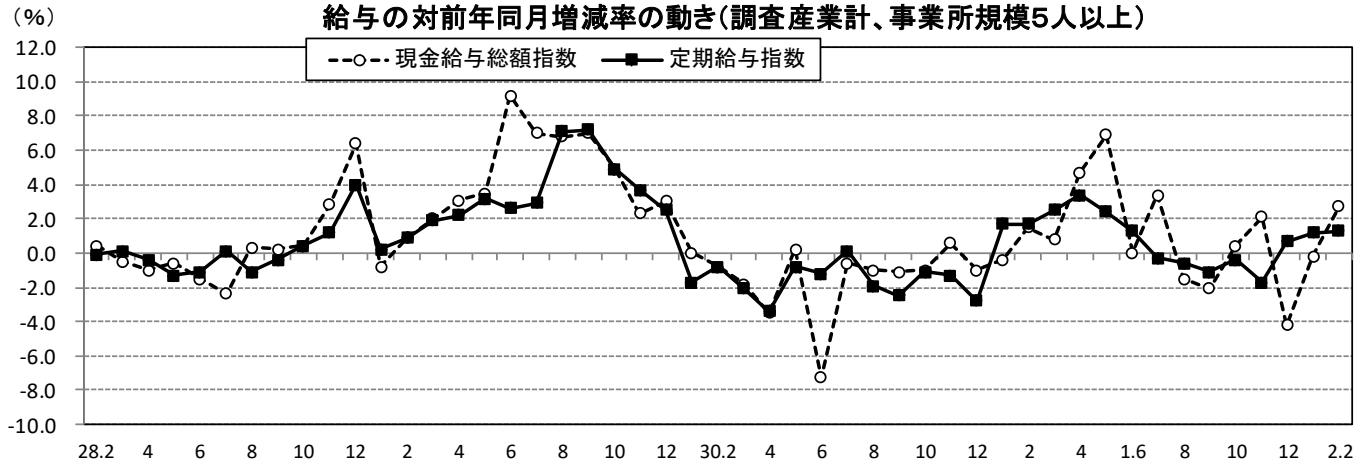
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数（速報）」

（２－２）雇用労働

（２－２－１）給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和２年２月の定期給与は 223,988 円 で、定期給与指数（平成 27 年＝100）では 103.7 となり、前年同月比 1.3%増と３カ月連続の増（現金給与総額 228,533 円、現金給与総額指数 91.1、前年同月比 2.7%増）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は 85.4 となった。

総実労働時間は 146.0 時間で、総実労働時間指数は 94.4 となり、前年同月比 0.7%増と２カ月連続の増となった。このうち、所定外労働時間は 9.6 時間で、所定外労働時間指数は 83.5 となり、前年同月比 4.4%増と 25 カ月ぶりの増となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

給与及び労働時間の全国との比較（調査産業計、事業所規模5人以上）

	実　数		指数（H27=100）		対前年同月増減率	
	青森県	全　国	青森県	全　国	青森県	全　国
現金給与総額	228,533　円	266,706　円	91.1	84.5	2.7	0.7　%
定 期 給 与	223,988　円	262,318　円	103.7	100.7	1.3	0.5　%
特 別 給 与	4,545　円	4,388　円	―	―	―	28.9　%
総実労働時間	146.0　時間	135.6　時間	94.4	93.9	0.7　%	−1.6　%
所定内労働時間	136.4　時間	125.3　時間	95.3	93.9	0.5　%	−1.4　%
所定外労働時間	9.6　時間	10.3　時間	83.5	93.6	4.4　%	−3.8　%

（注）1.「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。

2.「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。

3.「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。

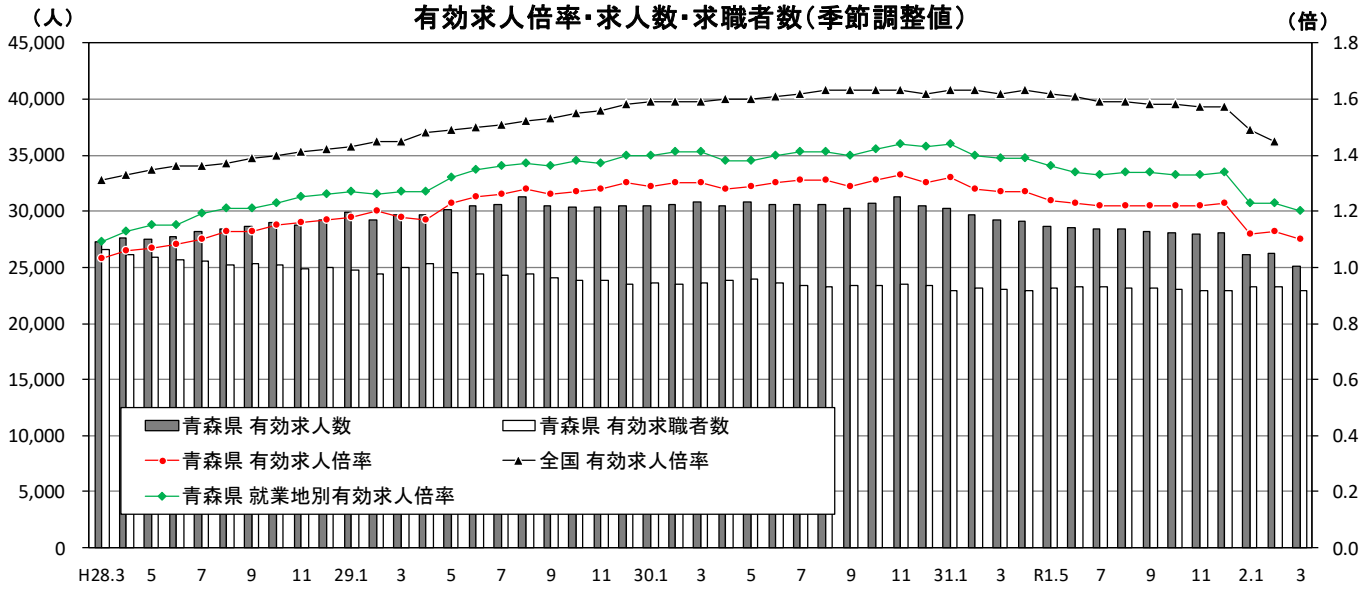
4.「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。

5. 全国の数値については、平成30年11月確報から、平成24年以降において東京都の「500人以上規模の事業所」についても再集計した値（再集計値）に変更しており、従来の公表値とは接続しないことにご注意ください。 また令和元年6月分速報から「500人以上規模の事業所」について全数調査による値に変更していることにご注意ください。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

（２－２－２）有効求人倍率

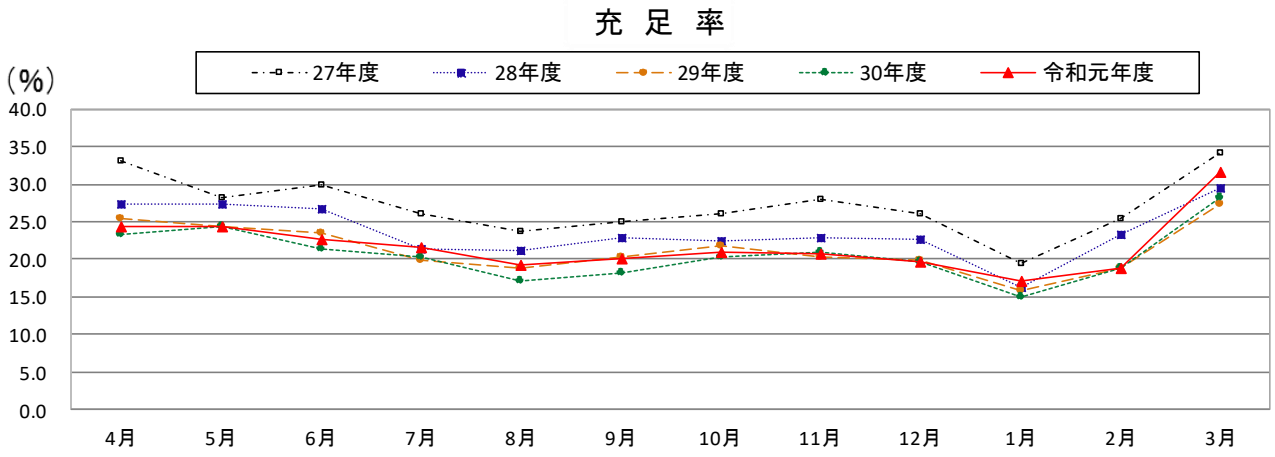
令和２年３月の有効求人倍率（季節調整値）は1.10倍で、前月を0.03ポイント下回った。就業地別有効求人倍率は1.20倍で、前月を0.03ポイント下回った。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」、厚生労働省職業安定局雇用政策課「一般職業紹介状況」

（参考）充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

令和２年３月の充足率は31.5%で、前年同月を3.4ポイント上回った。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」※充足率＝充足数／新規求人数

（２－３）物価

令和２年３月の青森市消費者物価指数（平成 27 年=100)は、総合指数が 102.3 となり、前月と比べ 0.3%の下落、前年同月と比べ 0.2%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は 102.6 となり、前月と比べ 0.3%の下落、前年同月と比べ 0.2%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 102.4 となり、前月と比べ 0.1%の下落、前年同月と比べ 0.4%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ 0.3%の下落となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道（他の光熱）、交通・通信（自動車関係費など）などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ 0.2%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料（肉類など）、住居（設備修繕・維持など）などの上昇が要因となっている。

図1　総合指数の動き

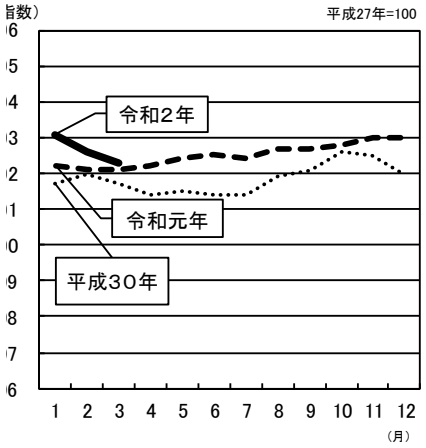


図2　生鮮食品を除く総合指数の動き

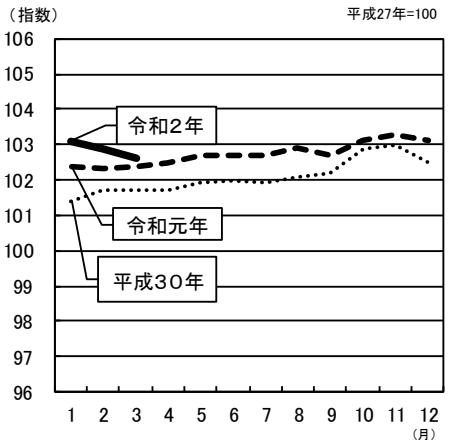
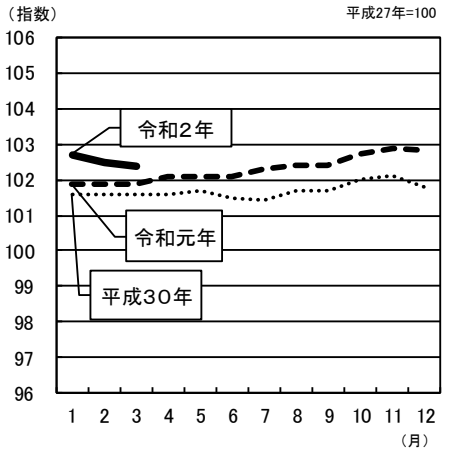


図3　生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き　　（平成27年=100）

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	102.3	102.6	102.4	101.0	105.2	97.7	101.3	103.8	101.5	102.8	102.2	99.1	98.4	103.8	97.3
前月比(%)	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 0.1	0.0	▲ 0.2	0.4	0.0	▲ 0.9	▲ 0.3	▲ 1.7	▲ 0.2	▲ 0.8	0.0	0.2	0.6
寄与度	―	▲ 0.30	▲ 0.08	0.00	▲ 0.06	0.02	0.00	▲ 0.10	▲ 0.01	▲ 0.05	▲ 0.01	▲ 0.10	0.00	0.02	0.04
前年同月比(%)	0.2	0.2	0.4	0.2	1.2	0.9	1.2	▲ 0.3	▲ 0.1	1.3	0.2	▲ 0.1	▲ 4.2	1.1	▲ 5.6
寄与度	―	0.19	0.36	0.09	0.34	0.04	0.24	▲ 0.03	0.00	0.04	0.01	▲ 0.01	▲ 0.11	0.09	▲ 0.33

※　**寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比（%）の値に一致する。

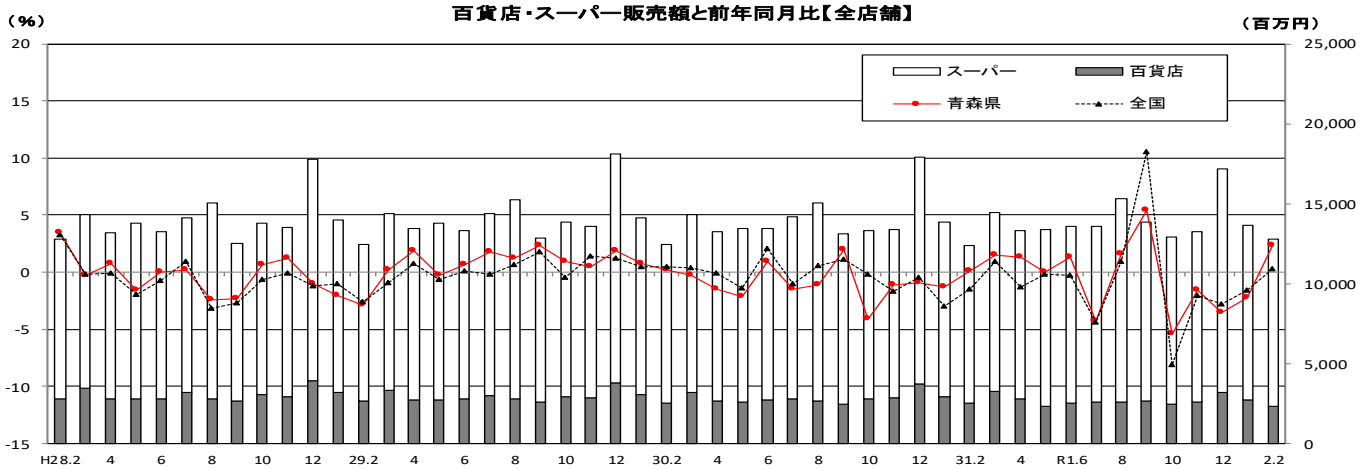
　前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

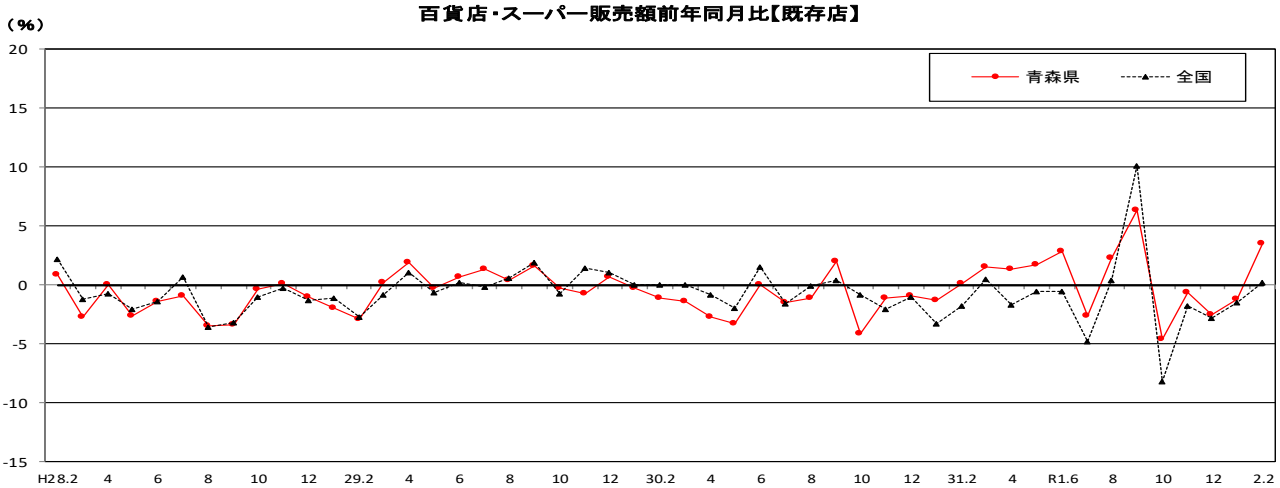
（２－４）個人消費

（２－４－１）百貨店・スーパー販売額（更新なし）

令和２年２月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが 128 億円で前年同月比 2.3%増となり、5 カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比 3.5%増となり、5 カ月ぶりに前年同月を上回った。



資料：東北経済産業局「東北地域百貨店・スーパー販売額動向」、経済産業省「商業動態統計速報」

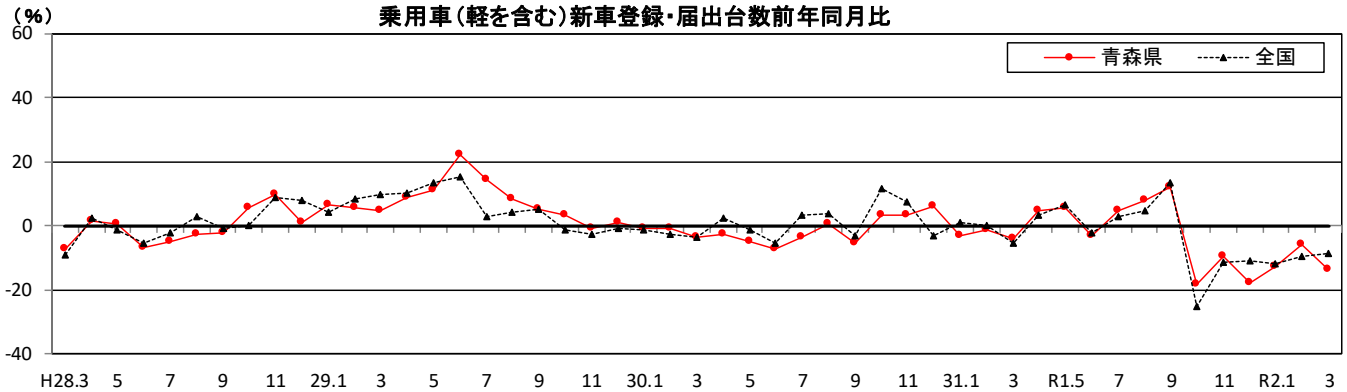


資料：東北経済産業局「東北地域百貨店・スーパー販売額動向」、経済産業省「商業動態統計速報」

＊　大型小売店は従業員が 50 人以上で売場面積が 1,500 平方メートル以上の商店をいう。
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

（２－４－２）乗用車新車登録・届出台数

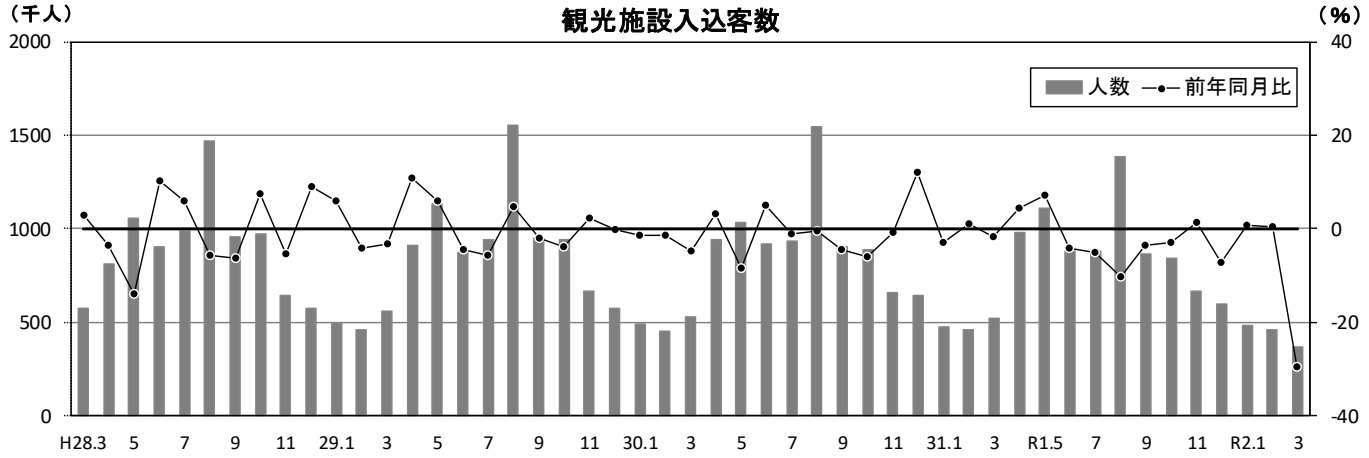
令和２年３月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 5,052 台で、前年同月比 13.7%減となり、6 カ月連続で前年同月を下回った。普通車、小型車及び軽乗用車のいずれも減少したことによる。



資料：日本自動車販売協会連合会青森県支部「自動車登録状況 新車月報」、同連合会「自動車統計データ」

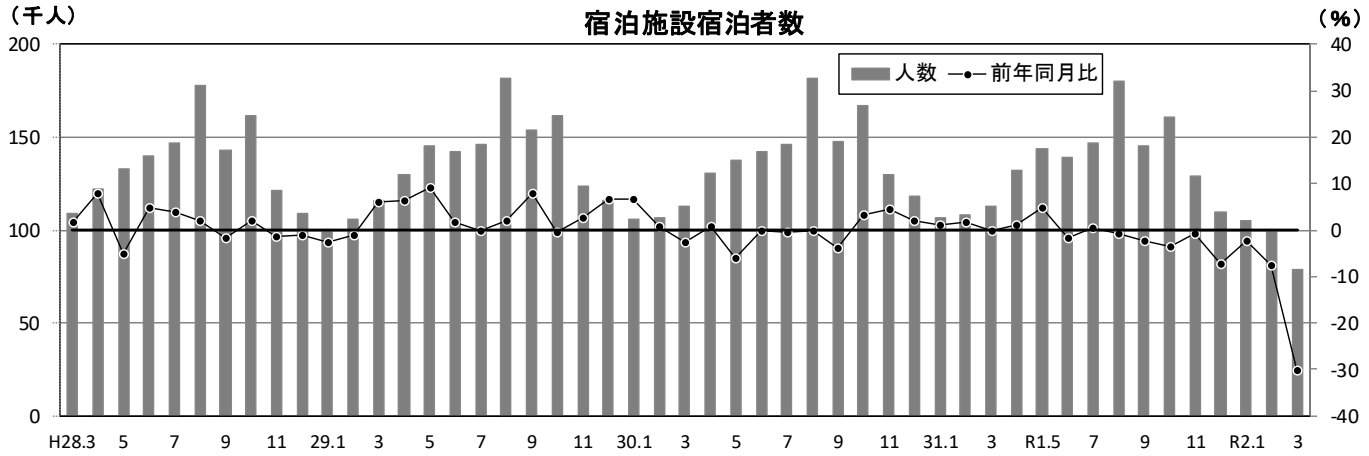
（２－４－３）観光入込客数・宿泊者数

令和２年３月の主な観光施設の観光入込客数は、370 千人で前年同月比 29.4%減となり、3 カ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、79 千人で前年同月比 30.3%減となり、8 カ月連続で前年同月を下回った。観光施設、宿泊施設ともに、県内全域で減少した。



資料：県観光企画課「月例観光統計」

※観光施設35施設（H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月～H28年12月は34施設、H29年1月以降は35施設対比）



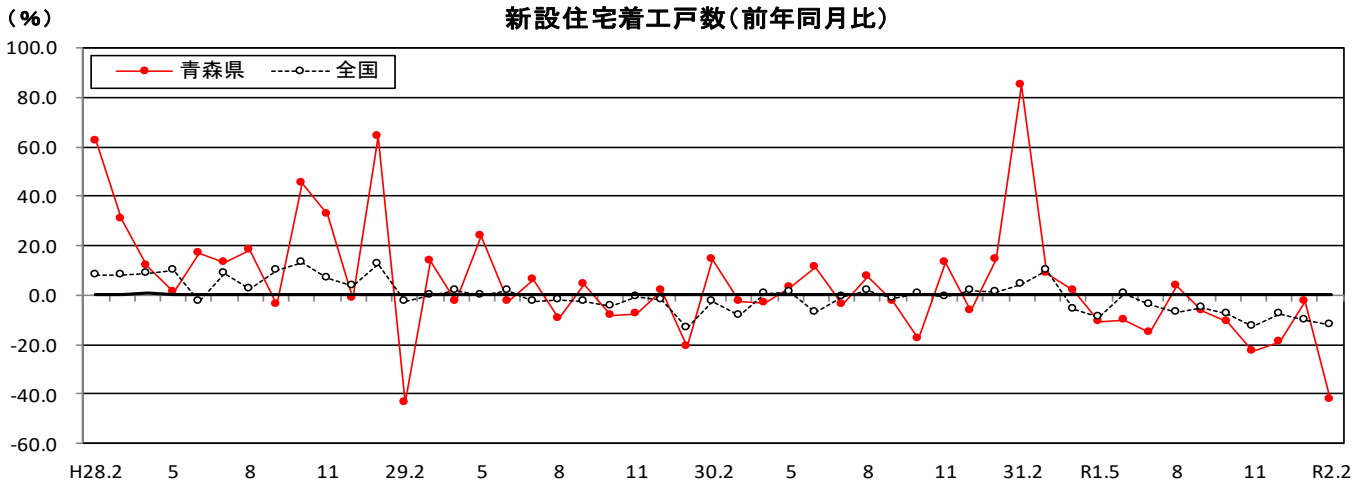
資料：県観光企画課「月例観光統計」

※宿泊施設56施設（H24年12月～H26年3月は57施設、H26年4～12月は56施設、H27年1～12月は55施設、H28年1月以降は56施設対比）

（２－５）建　　設

（２－５－１）住宅建設（更新なし）

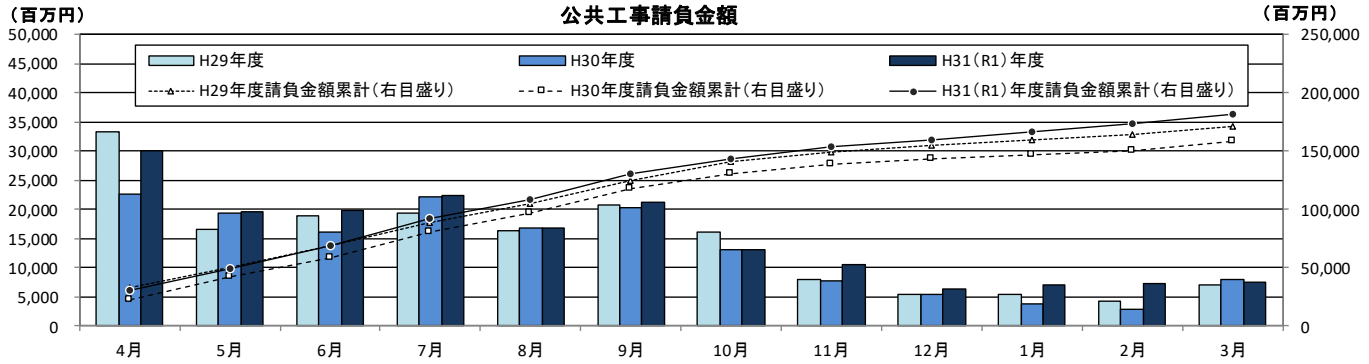
令和２年２月の新設住宅着工戸数は 273 戸で前年同月比 42.5%減となり、6 カ月連続で前年同月を下回った。持ち家と貸家が減少したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建築着工統計調査報告」

（２－５－２）公共事業

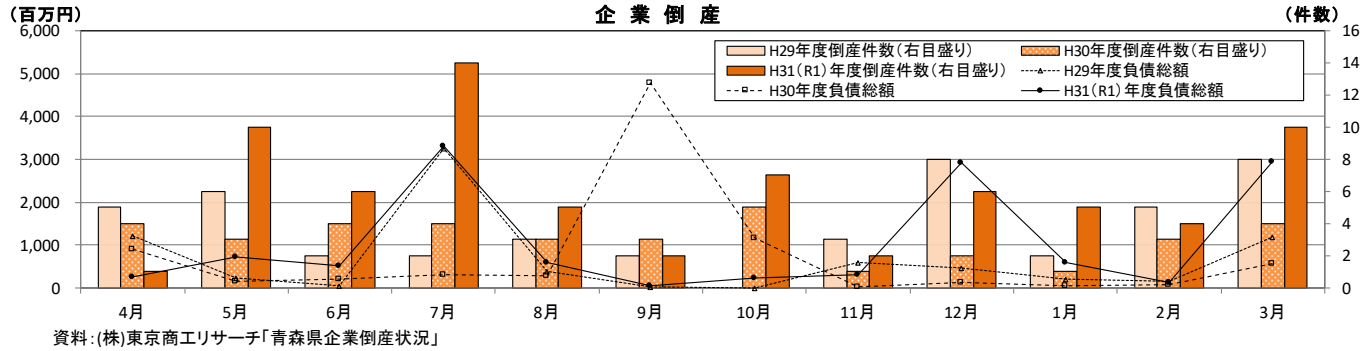
令和２年３月の公共工事請負金額は 75 億 5,800 万円で前年同月比 6.3%減となり、国、県などの減少により７カ月ぶりに前年同月を下回った。また、令和２年３月までの累計金額は 1,815 億 3,700 万円で前年同期比 14.8%増となった。



資料：東日本建設業保証㈱青森支店「青森県内の公共工事の動向」

（２－６）企業倒産

令和２年３月の企業倒産は、件数は 10 件で前年同月比 150.0%増となった。負債総額は 29 億 6,100 万円で前年同月比 424.1%増となった。また、2019 年度（令和元年度）の累計倒産件数は 72 件で前年度比 94.6%増となり、過去 10 年間で２番目に多い件数となった。負債総額は 126 億 500 万円で前年度比 46.5%増となった。



資料：(株)東京商工リサーチ「青森県企業倒産状況」

（３）青森県景気動向指数

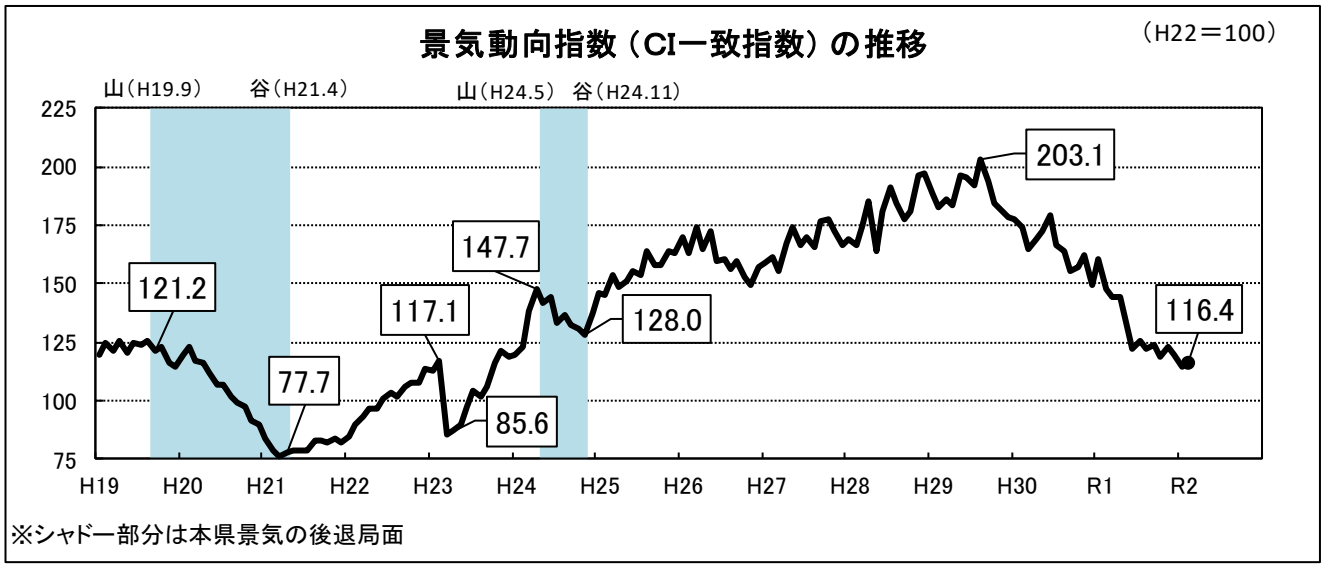
令和２年２月の青森県景気動向指数（ＣＩ）は、先行指数 97.8、一致指数 116.4、遅行指数 111.6 となった。

先行指数は、前月を 6.1 ﾎﾟｲﾝﾄ上回り、４カ月ぶりに上昇した。

一致指数は、前月を 1.8 ﾎﾟｲﾝﾄ上回り、３カ月ぶりに上昇した。

遅行指数は、前月を 0.6 ﾎﾟｲﾝﾄ上回り、２カ月連続で上昇した。

２月の一致指数は、生産関連の指標以外が全てプラスになったことから上昇した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
企業倒産件数（逆ｻｲｸﾙ）	4.86	４カ月ぶり	日経商品指数（42種）	-2.13	２カ月連続
新規求人倍率（全数）	4.12	２カ月ぶり	新設住宅着工床面積	-1.25	３カ月ぶり
乗用車新車登録届出台数	1.38	２カ月連続	建築着工床面積	-1.15	２カ月ぶり
生産財生産指数	1.10	２カ月連続	中小企業景況ＤＩ	-0.72	３カ月ぶり
一致系列					
百貨店・スーパー販売額（既存店）	2.02	２カ月連続	投資財生産指数	-2.74	２カ月ぶり
旅行取扱高	1.39	２カ月ぶり	鉱工業生産指数	-0.63	２カ月ぶり
所定外労働時間指数（全産業）	0.82	２カ月ぶり			
有効求人倍率（全数）	0.63	２カ月ぶり			
輸入通関実績（八戸港）	0.33	４カ月ぶり			
遅行系列					
公共工事請負金額	2.40	２カ月連続	家計消費支出（勤労者世帯：実質）	-1.47	２カ月ぶり
有効求職者数（全数）（逆ｻｲｸﾙ）	0.65	３カ月ぶり	青森市消費者物価指数（総合）	-1.07	２カ月連続
りんご消費地市場価格	0.55	２カ月ぶり	常用雇用指数（全産業）	-0.54	２カ月ぶり
県内金融機関貸出残高	0.27	２カ月ぶり			

（参考）青森県景気動向指数（ＤＩ）

先行指数	37.5%	（10カ月連続で50%を下回った）
一致指数	28.6%	（２カ月連続で50%を下回った）
遅行指数	64.3%	（２カ月連続で50%を上回った）

（４）青森県景気ウォッチャー調査（令和２年４月期）

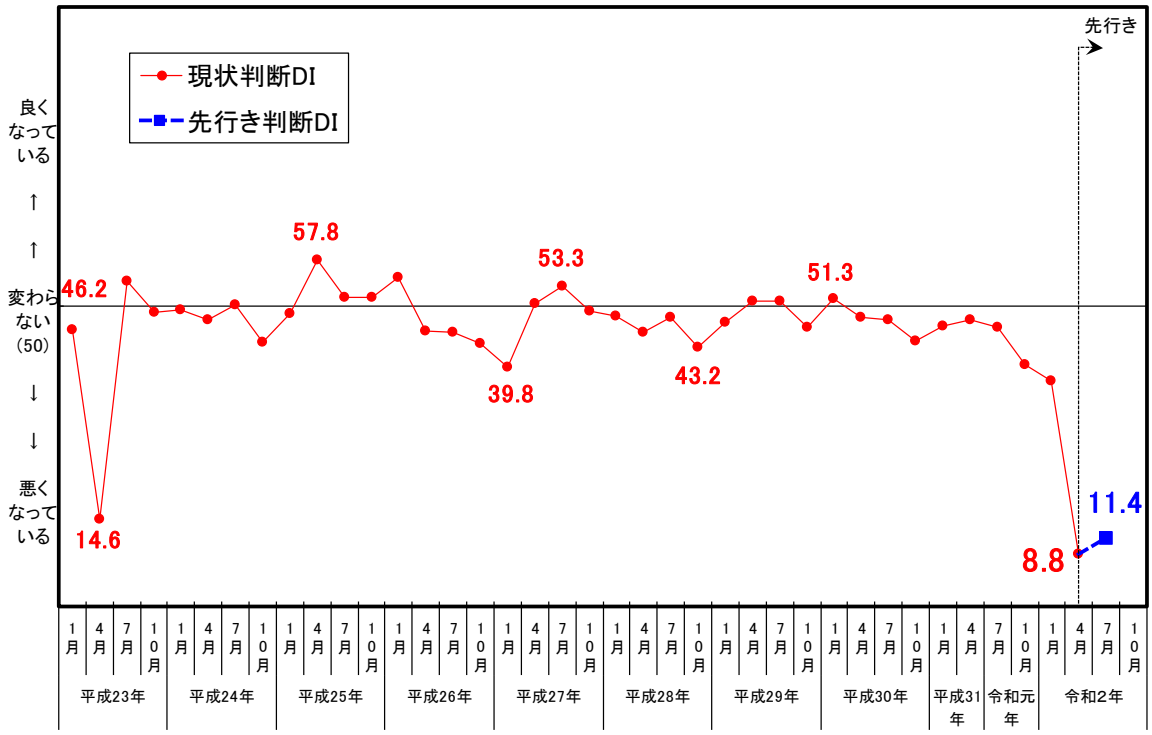
現状判断ＤＩは、新型コロナウイルス感染症の拡大によるイベント等の中止や受注のキャンセルなどにより、前期比２８．７ポイント減少の８．８となり、平成１３年７月の調査開始以来、最も低い水準となった。

先行き判断ＤＩは、夏祭りなど行事等の中止や外出抑制による経済活動停止への懸念などにより、前期比３２．４ポイント減少の１１．４となり、調査開始以来最も低い水準となった。

３カ月前と比べた景気の現状判断ＤＩは、景気の横ばいを示す５０を９期連続で下回った。
３カ月後の景気の先行き判断ＤＩは、景気の横ばいを示す５０を４期連続で下回った。

（調査期間　令和２年４月１日～４月１７日　回答率　９９％）

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



●３カ月前と比べた景気の現状判断

動向	前期調査と比べると、「良くなっている」が１．０ポイント減少、「やや良くなっている」が７．０ポイント減少、「変わらない」が３２．９ポイント減少、「やや悪くなっている」が２３．８ポイント減少、「悪くなっている」が６４．７ポイント増加となり、全体では２８．７ポイント減少の８．８となった。 判断理由では、新型コロナウイルス感染症の拡大によるイベント等の中止や、受注業務のキャンセル、来客数や売上の減少などのマイナス面をあげる声が多く、１０月１日からの消費税増税により低迷した業況の更なる悪化をあげる声もあった。一方で、現時点では感染症の影響による大きな変化はないとの声もあった。 地区別では、前期調査と比べて、全地区でポイントが大幅に減少し、景気の横ばいを示す５０を下回った。

●３カ月後の景気の先行き判断

動向	前期調査と比べると、「良くなる」が増減なし、「やや良くなる」が８．０ポイント減少、「変わらない」が４５．９ポイント減少、「やや悪くなる」が１３．９ポイント減少、「悪くなる」が６７．７ポイント増加となり、全体では３２．４ポイント減少の１１．４となった。 判断理由では、夏祭りをはじめとした行事等の中止や外出抑制による経済活動停止への懸念、新型コロナウイルス感染症の終息の見通しが立たない不安などをあげる声が多かった。また、今後感染症が終息したとしても景気回復には相当な時間を要するとの声もあった。 地区別では、前期調査と比べて、全地区でポイントが大幅に減少し、景気の横ばいを示す５０を下回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

○	春に向けての住宅取得検討顧客が動き出しており契約状況も上向いたため。（住宅建設販売=東青）
□	消費税増税になったことで落ち込み（お客様の建築意識）があると思ったが、1月以降もそんな気配なく、お客様の動きが活発。（住宅建設販売=津軽）
□	来店頻度は下ったが、個人の売り上げや商品お買い上げなどにあまり変化はない。（美容院=県南）
△	取引先の経費見直しで取引額の減額の通告有り。（求人情報誌=東青）
△	受注量、単価等低下している。（広告・デザイン=津軽）
△	客入数・売上共、減少傾向。（観光名所等=県南）
△	今年は小雪だったので除雪業者や冬物の商売している業種が悪かった。それに加えてコロナの影響で、日に日に出歩く人々も減ってきているようで、ガソリンの販売数量も減ってきた。（ガソリンスタンド=下北）
×	コロナウイルスの影響で宴会が全て無くなった。（一般飲食店=東青）
×	コロナウイルスの影響。訪日客よりも国内客の激減が影響大きかった。（観光型ホテル・旅館=東青）
×	新コロナウイルスの影響による様々なイベントや会合の中止、集客につながるような広告の自粛等、経済活動が停滞している。（広告・デザイン=東青）
×	新型コロナウイルスによる当施設の予約が必要な食事、弁当、体験学習等、4月1日現在キャンセルが40,000人分有り。（観光名所等=津軽）
×	コロナの影響で弘前さくらまつり等のイベント中止により各業界が休業や苦しい落ち込みになっている。最悪の状況です。（設計事務所=津軽）
×	飲食業やホテル業の注文がなくなった。（食料品製造=津軽）
×	コロナウイルス感染対策による外出控え。館の集客が激減している。比較的、食品は悪いなりに堅調だがそれ以外の衣料服飾住生活が低迷。（衣料専門店=県南）
×	売上が前年同月比８０％減に落ち込んでいます。（旅行代理店=県南）
×	増税で動きが鈍くなっているタイミングで、コロナウイルス、自粛ムードが強くなってホテル、飲食店需要がまったくなし、という状況になった。（飲料品製造=県南）
×	派遣業界としては、4月からスタートした「同一労働同一賃金」による影響大！加えて、新型コロナウイルスもあり、求人（採用）減が進むと思われる。（人材派遣=県南）
×	2月末より宴会のキャンセルが相次ぎ、3月・4月はほぼ全てキャンセルになりました。（都市型ホテル=下北）

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

○3カ月後の景気の先行き判断理由

○	コロナウイルスが落ち着く。落ち着いてほしい。（旅行代理店=津軽）
□	コロナ感染拡大が終息していたとしても、すぐには消費拡大はおこらない。（乗用車販売=津軽）
□	変わらないと言うより先が見えないです。（スナック=下北）
△	コロナの影響で低マインドの継続が予想される。景気が回復するには、相当の時間がかかると思うため。（住宅建設販売=東青）
△	オリンピックの延期に始まり、各種イベントの中止等、有効な対策、ワクチンが開発されない限り（新型コロナウイルスの終息）景気回復は難しい。（ガソリンスタンド=県南）
×	良くなる訳が有りません。気持ちだけは期待して頑張るつもりですが見当がつきません。（スナック=東青）
×	先が見えてこない。不安です。（旅行代理店=東青）
×	多くのイベント、行事の中止が予想され関連する業界に与える影響が大きい。人の外出が抑制され、必需品以外の購入が抑制される。（経営コンサルタント=東青）
×	オリンピック中止等の経済活動の停止で市場が動かなくなる可能性が高いため。（人材派遣=東青）
×	弘前はさくらまつりとよさこい津軽のイベントが中止となった。さらに、ねぷたや他のイベント中止が続くと景気は大打撃を受ける事となる。（商店街=津軽）
×	新型コロナウイルスの影響により、ビジネス・観光のお客様の宿泊、飲食店への来店がない。飲食店に関しては、地元のお客様の予約がキャンセルとなっている。（レストラン=津軽）
×	昨年の10月の消費税増税の影響に加え、新型コロナウイルス蔓延により外出が減り、人と物の動きが鈍化し景気に悪影響を与えると思う。（人材派遣=津軽）
×	各地のさくら祭り、イベントなどが中止になって打撃を受けた業種業態や低迷した地域経済が容易に回復するとは思えない。政府の速やかな経済支援対策が望まれるが、多くは期待できない。（新聞社求人広告=津軽）
×	チラシ等の販促も含めて自粛して来ている。お客様も今は特に慎重になっているし不安に思っている。（家電量販店=県南）
×	仕事を休まざるをえなくなっている従業員がいるので、給料も減る事が考えられる。（コロナの影響）（卸売業=県南）
×	コロナの終息地点が見えない今、良くなる条件はない。（建設=県南）
×	既に5月・6月もキャンセルになっていて、結婚式も全て延期又は中止になっています。（都市型ホテル=下北）

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」